

第2回試行区民会議の開催状況

1 各区の開催日程等

	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
開催日時	11月21日(月) 14時～	11月25日(金) 10時～	11月25日(金) 13時～	11月25日(金) 18時～	11月8日(火) 14時～	11月21日(月) 18時30分～	11月11日(金) 15時～
所要時間	2時間	2時間	3時間	2時間	2時間15分	2時間	2時間30分
会場	川崎区役所 第1会議室	幸区役所 第1会議室	井田小学校 体育館	高津区役所 第1会議室	宮前区役所 大会議室	多摩区役所 1102会議室	麻生区役所 第1会議室
議長(団体)	弾塚委員 (町連)	葉山委員 (保護司会)	横川委員 (中町婦連)	宮田委員 (町連)	黒沢委員 (町連)	川崎委員 (町連)	中島委員 (町連)
副議長(団体)	平田委員 (知識経験者)	庄司委員 (公募)	藤枝委員 (町連) 竹井委員 (まちづくり)	吉崎委員 (まちづくり)	和田委員 (商連) 松井委員 (まちづくり)	田嶋委員 (区社協・まちづくり)	芦垣委員 (人権擁護委)
委員構成	区政推進会議委員	区政推進会議委員	区政推進会議委員	区政推進会議委員 町連1名 まちづくり1名	区政推進会議委員 子育て団体1名 まちづくり1名 地域教育会議1名	区政推進会議委員 大学関係3名 外国人市民1名	区政推進会議委員
委員の出席状況	14名(14名)	13名(14名)	10名(13名)	12名(16名)	11名(16名)	17名(18名)	13名(14名)
参与の出席状況	11名(12名)	8名(9名)	12名(12名)	9名(11名)	8名(12名)	11名(12名)	7名(9名)
傍聴者数	4名	4名	35名	7名	13名	6名	12名

2 各区での審議課題等

区名	審議課題等	報告・発表者
川崎区	区民会議の制度について 川崎区の課題について ・身近な地域での子育て・子育て支援活動 ・川崎駅周辺の自転車対策	総合企画局政策部、区総務企画課 区子ども総合支援、健康福祉局こども施策推進部 区地域振興課
幸区	区民会議の制度について 前回議題の進捗状況について ・区内の自転車対策 ・区内の緑化推進 ・地域防災活動の推進	総合企画局政策部、区総務企画課 区総務企画課
中原区	地域社会と学校の在り方について 地域で取り組む安心・安全なまちづくり 区民会議の制度について 前回課題の報告 ・自転車と共生するまちづくりの推進と課題 ・地域における子育て支援についての取組と課題	井田小学校長 区民（木月1丁目町内会） 総合企画局政策部 区総務企画課
高津区	区民会議の制度について 区の課題への取組状況について ・溝口駅周辺放置自転車対策 ・溝口駅南口周辺地区の総合的整備 ・二ヶ領用水久地円筒分水の環境整備及び保存 ・安全・安心のまちづくり	総合企画局政策部、区総務企画課 区総務企画課
宮前区	区民会議の制度について その他 ・魅力ある区づくり推進事業 ・安全・安心まちづくり	総合企画局政策部、区総務企画課 区総務企画課
多摩区	市立多摩病院の地域医療連携について（報告事項） 区民会議の制度について 地域課題の解決について ・安全・安心なまちづくり	病院局多摩病院準備担当他 総合企画局政策部、区総務企画課 区民（栗谷町会、南生田中学校区地域教育会議、まちづくり推進協議会）
麻生区	区民会議の制度について 区の課題の審議について ・区民会議委員からの課題提案について ・麻生区の子ども支援の現状と課題 ・魅力ある麻生川	総合企画局政策部、区総務企画課 区総務企画課 区民（親子ハーモニーランドINあさお）、区社会福祉協議会、 区子ども総合支援 区総務企画課

3 区民会議で出された、主な意見・提案等（区民会議の制度素案の項目で分類）

（区民会議の役割【所掌事務】）

- ・ 区政推進会議が担ってきた機能は専門部会等に委ね区民会議は新しい取組を。
- ・ 区政推進会議の機能の継承。
- ・ 審議課題の選定方法について（・区民からの課題提起も必要、・課題選定の基準を設定、・地域で活動する団体等からの課題）

（区民会議の審議結果）

- ・ 分野別の行政課題の本庁側での受け皿を明確に。
- ・ 参加と協働にどう繋げるかの検討が必要。

（区民会議の委員）

- ・ 20人以内でよいか。
- ・ 委員は、専門性よりも全体的な視点が重要、専門性は関係者や専門部会の活用で補える。
- ・ 団体推薦委員について（・指導力のある団体）
- ・ 公募委員について（・2割以上必要、・子育て世代など幅広い世代の参加、・公募の方法の検討が必要、・公募に登録制、・公募基準の透明性）
- ・ 委員のバランスについて（・若い世代、子育て世代、・女性の比率を高く、・大学生、高校生の参加）

（区民会議の運営等）

- ・ 会議設定について（・開催回数、・開催日及び時間帯の設定、・十分な審議時間）
- ・ 専門部会について（・専門部会の役割が重要、・個別課題の検討、・まちづくり推進組織との連携）
- ・ 審議の方法について（・委員と区民会議参与との意見交換が必要）
- ・ 区民の参加について（・幅広い参加手法の検討、・イベントの開催、・一時保育）

（区民会議参与）

- ・ 議会との関係での区民会議参与の位置付け。（請願・陳情に関して）
- ・ 区民会議参与の立場の共通理解が必要。

（その他）

- ・ 単に地域課題ではなく地域コミュニティをつくるという視点での議論が必要。
- ・ 資料は事前送付が必要。
- ・ 行政として、委員への説明責任をきちんと果たす。

4 アンケートでの主な意見・提案

- ・ なるべく小さなスケールでの設置も。
- ・ 魅力ある区づくり推進事業をどのように取扱うか調整が必要。
- ・ 課題解決に向けて具体的に実践できる区民会議に成長することを期待。
- ・ 課題解決に向けて区が事業局との調整に積極的に関わる姿勢は評価できる。
- ・ 区民会議の審議結果は行政として強力に推進すべき。
- ・ 20人での課題把握は困難。専門部会等の活用が必須。
- ・ 再任の上限が必要。
- ・ 開催日程、時間の考慮。
- ・ 活動分野からどう団体を選ぶかルールが必要。
- ・ 男女の比率を同じに。
- ・ 課題の選定によって委員を選任。
- ・ 団体の絞込みが必要。
- ・ 積極的な団体からの選任が解決に向けた議論に繋がる。
- ・ 地域で活動している区民を区民会議の委員に。
- ・ 公募を多く。
- ・ 公募の選定基準を明確に。
- ・ 専門部会の活用が必要。
- ・ 専門部会での多様な人材を確保。
- ・ 専門部会はテーマにより柔軟に開催
- ・ 団体や区民からの提案を積極的に受けることが必要。
- ・ 区の広聴機能を活用し、参加しにくい人からの意見を聞く。
- ・ 委員からの課題提案。
- ・ 多数の市民が参加するシステムが必要。
- ・ 委員間での議論があるべき。
- ・ 委員相互の活発な議論を期待する。
- ・ 審議が不十分。
- ・ 課題に取り組む事例の報告は良い。
- ・ 傍聴者が少ない。
- ・ 活動報告から課題把握、解決策の検討へ。
- ・ 区民会議の本格実施に大いに期待。
- ・ 参加意識をあらためて自覚した。
- ・ 広報の活用を。
- ・ 条例の骨格はこの程度でいい。